

農学委員会 土壌科学分科会（第21期・第1回）議事要旨

1. 日時：平成20年12月16日（火） 13：00～15：00
2. 場所：日本学術会議6階6-A(2)会議室
3. 出席者：大杉 立、三枝正彦、塩見正衛、鈴木雅一、松本英明、三野 徹、
陽 捷行、宮崎 毅、三輪睿太郎、森 敏、木村真人（世話人）
欠席者：西澤直子、中西友子
4. 議題
 - (1) 委員長・副委員長・幹事の選出
 - ・ 委員長に三枝正彦、副委員長に大杉立、幹事に木村真人を選出した。なお、あと一人の幹事の選出は、次回分科会において選出することとした。
 - ・ 三枝委員長より、土壌科学分科会と IUSS 分科会の関係について、国内のおよび IUSS を含む国際的課題における土壌科学に関わる諸問題にそれぞれ分担して取り組むとともに、相互に密接な連携を取り合っていくことが挨拶された。
 - (2) 特任連携会員
 - ・ 石崎武志（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所保存修復科学センター長、文化財保護学）
 - ・ 後藤逸男（東京農業大学応用生物科学部教授、農業現場）
 - ・ 松本 聡（財団法人日本土壌協会会長・理事）を本分科会特任連携会員とすることを、平成21年1月の幹事会に要請することとした。
 - (3) 委員の分科会における役割分担
 - ・ 日本学術会議、日本学術会議と総合科学会議の関係が話し合われた。
日本学術会議の使命は、教育、研究、科学技術の普及。
日本学術会議と総合科学会議はハンドルとエンジンの関係にあり、総合科学会議との連携が重要で、プロジェクトの実施のためには総合科学会議への働きかけが重要。
また、総合科学会議は提言を政策に反映させる場合に重要
 - ・ 各委員はその研究分野・研究歴・関連学協会から、国内における土壌科学に関わる重要な課題・情報の入手・提供に努める。（追加訂正が必要）
三枝正彦：土壌肥沃度、土壌の工学的取り扱い、施設園芸
大杉 立：作物、環境保全型農業
木村真人：土壌微生物、物質循環、水田
塩見正衛：草地、畜産廃棄物、物質循環、システム生態系としての土壌
鈴木雅一：水文学、土壌物理、土壌分類、都市緑化、半乾燥地土壌
中西友子：
西澤直子：植物栄養
松本英明：植物栄養、作物栄養

三野 徹：耕作放棄地、地域農業

陽 捷行：人間と土壌

宮崎 毅：農地地盤高、都市のヒートアイランド化

三輪睿太郎：行政対応

森 敏：植物栄養、作物栄養

（４）関連学協会

森林立地学会、土壌物理学学会、日本作物学会、日本砂漠学会、日本森林学会、日本地理学会、日本土壌動物学会、日本土壌微生物学会、日本土壌肥料学会、日本ペドロジー学会、農業環境技術研究所、農業農村工学会、日本腐植物質学会、第四紀学会、環境科学会、環境工学会

（５）本分科会の活動について

- ・ 従来の「土壌科学」を超えるための議論を分科会で行う。各種の課題につき、話題提供者を交えて「土壌科学」を考える。
- ・ わが国と土壌科学のレベルを世界に喧伝する。
- ・ 土壌汚染：土壌汚染対策法の問題点。科学的実態と Codex 等の基準の間の乖離
- ・ 市民向けのジャーナル等への積極的な投稿（「農業技術」など）
- ・ 土壌に係る産業の実態を調査する（資料：ECOPRODUCT）。

（６）その他

- ・ 本分科会の活動に関連して、各委員に「土壌に係るトピックス」の提供を依頼。
- ・ 土壌に係る産業実態を調査（資料：ECOPRODUCT）（担当：木村）
- ・ 次回「日本の展望」（資料）を論議。
- ・ 次回の分科会を２月～３月に開催。

以上